

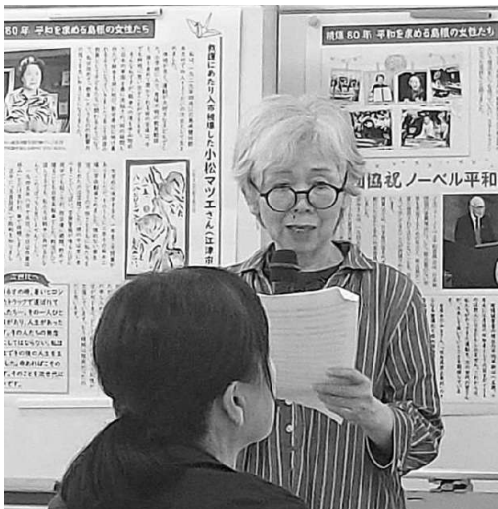
要求員いっばい
会大募集!

班会の定例化へ、 つながりだした活動

島根

大田支部なきき班 大谷 梢

中心メンバーの急病から、集まれなくなった班が、職場班からの退職者を迎えたことを転機に、再び動き出しました。県本部の班活動交流会の発言から紹介します。



交流会で発言する大谷さん

会員を一人ひとり訪ねて

なきき班は島根県大田市の東部にあり、広域にまたがる班です。2023年4月頃、班の中心メンバーが病気で活動が続けられなくなり、職場班から転籍していた私に「班担当の支部委員になってほしい」と声がかかりました。長く住んでいながら町のことを何も知らずに過ごしてきて、もっと知りたいと思っていたこともあり、押

し切られるように引き受けました。支部委員にはなかったものの前任者に聞くこともままならず、会員名簿もなく、会議内容をお知らせできずにいました。その後、会員名簿が届き、しんぶんの配達集金体制も分かりました。まずは、会ったことのある会員の家を訪ね、「集まって話をしたい」とよびかけ、11月20日に3人で会いました。自己紹介と情報交流から始め

ると、みんな気にはなっていないので何もできなかったと分かりました。月1回の班会開催を目指し、3人で相談を重ね、班の役割分担もして、配達集金の体制なども共有。他班のようには会員にニュースで班のことを知らせよう



班のようすを伝えるニュース

と、なきき班ニュース(写真)をつくり配りました。つながって新たな仲間と

新たな仲間と

会員の都合が合わず班会が開けない時期も、しんぶんの配達・集金が会員や読者とななる大切な機会となりました。長年の会員から「班会には出られないけれど少しでも協力したい」と言われたり、署名や募金に協力してくれる人もいて、病気療養からの復帰で1人、つながりなどで2人、新たな仲間を迎えました。現在、なきき班の会員は9人になっています。

つた場所の話題や職場の同僚が共通の友人だったなど話が盛り上がり、班でやりたいことも出し合いました。そんなおしゃべりから出た「更年期障害について体験談を聞いてみたい」という要求は、「夫に言っても分かってくれない。女性で集まっているけれど、なかなか話せなかつた」と切実でした。班会で、どんな症状で何科を受診したかなど、聞いたことをまとめて、自分たちでできる対処法、食生活や運動、リラクゼーションについて話し、盛り上がりました。そして、葉ワザ採りとわさび漬けを4月に計画。当日は悪天候でこられない人もありましたが、3人が参加。次はハーブガーデンへと相談しています。

〈月1回〉
あなたの笑顔を見たくて②
訪問介護の現場から
京都・ヘルパーズステーションこまろ所長 妹尾真由美

主張

戦後・被爆80年の節目の年、「平和の新婦人が出番」「要求いっばい、会員大募集!」と、各地で仲間づくり行動が広がっています。広島県本部は「県に一大軍事拠点計画がすすめられ、戦争準備がここまできています。新婦人を大きくすることが何より平和の力」と会員の前大会時現勢突破へ迫っています。千葉のある班でも「日本が戦争に向かっているようで、とても心配。こんなときだからこそ、新婦人が大事」との戦争を体験した会員の熱い思いに燃え、班活動を再開し仲間づくりにも踏み出して

平和の夏、あらゆるとりにくみで 仲間を増やそう

います。平和の活動をはじめ、ヘイトや女性蔑視ゆるさないと行動した選挙の中で、選択的夫婦別姓などの要求運動でも、女性たちの新しい出会いと共感が広がるいま、「新しい出会いと共感が広がるいま、」

爆の絵」展や戦争体験を聞くつどい、平和の鐘つき、親子の行事など多彩な活動のなかで、どの班も仲間を迎えましょう。小組例会や体験会、おしゃべりカフェ、学習会の場にも、原爆の絵やパネルを展示して、ゲストや参加者に「平和の新婦人」を丸ごと知ってもらい、原爆展用の新婦人ポスター、入会申し込みリーフも大いに活用しましょう。委員会は、支部・班の一步前進へ援助をつよめ、次世代とともに、秋の全国大会成功へ仲間づくりの大きな流れをつくりましょう。

しんぶんでおしゃべり

班会ではしんぶんタイムで記事を読むと、おしゃべりがはずみです。6月の班会で「選挙で変える 私のモヤモヤ」を読んだ時も、「OTC類似薬の保険外しをされると自己負担が増える大変」「医療費の4兆円減。コロナの時、病床がなくて大変だったのに。1万



(記事とは関係ありません)

「全然暑くないで」

この時期、通常の援助に加え、いつも以上に利用者宅の室内環境への配慮や健康状態のチェックも必須だ。エアコンがないお宅や、あっても点けていかなかったり、「クーラー嫌いやねん」「全然暑くないで」。家の中に入った時、外気温より高い室内もあり、扇風機が生暖かい風を回している。「トイレに何回も行くし、汗かかないから」と水分を控えている方も多い。季節外れの服装をされている方もしばしば見受けられる。高齢になると鈍感になり、暑さ寒さや喉の渇きを感じにくい、汗をかきづらくなるなどの変化がある。また、独居や高齢者世帯の方が多く、自覚症状に乏しく発信しづらい。しかし基礎疾患を抱えている方も多く、体力や免疫力が下がると命の危険性が高くなる。「いつもと違う」というヘルパーの勘は素晴らしい。微熱がある、顔色が悪い、ばーっとしている、食欲がない、水分をとった形跡がない、おしっこ量が少ないなどの異変のサイン。ヘルパーは基本ひとり訪問するので責任重大だ。異変をキャッチした時は迅速に事務所や家族に連絡、時には救急車を呼ぶこともある。本人の意思や思いを尊重しつつも、優先課題は命の保障だ。日頃の様子を把握する、いざという時は落ち着いて対応する、状況を客観的に報告する。これらを日々身につけていくのが、ヘルパーには問われる。訪問時にいつもと変わらない笑顔で迎えられると心底ほっとする。私たちの暑さのたたかいは始まったばかり。(次回は8月9日)